

スッポンMWジョイント50・75施工手順 (SDR-11・SDR-13.6) 用

⚠️ 注意

- ・ ストップリング内面は素手で触ると危険ですので十分注意して下さい。
- ・ 標線を記入せずに接合した場合、挿入不足または突き当て施工によるパッキンの締付トルク不足によって漏水につながる恐れがあります。
- ・ パイプが偏平して適用管外径より大きくなっている場合は、補正してから挿入して下さい。

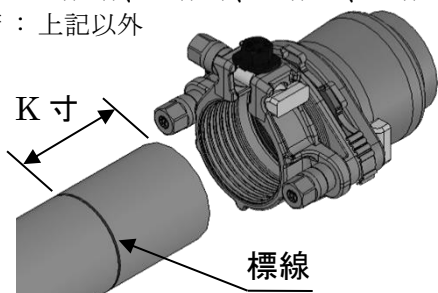
①パイプ挿入量記入

パイプ挿入量(K 寸)を測り、**標線**を記入して下さい。

- ・ パイプ切断のカエリは取り除いて下さい。
- ・ 滑剤の塗布は不要です。

継手：MW-W、MW-V、MW-D、MW-CAP II

異形管：上記以外



□K 寸とボルトサイズ表

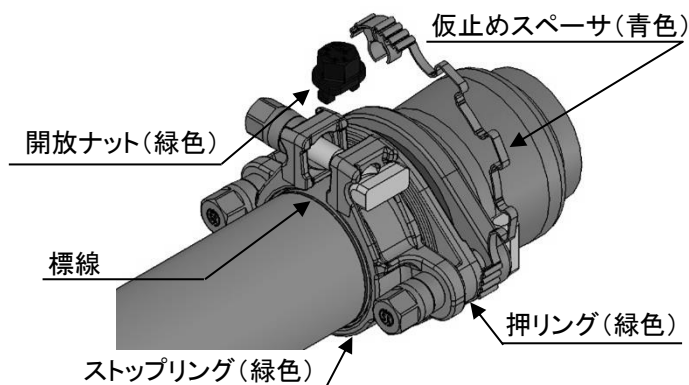
呼び径	適用管 外径	K 寸 (mm)		ボルトサイズ (参考: 締付トルク N・m)	
		継手	異形管	押リング	ストップリング
50	63.0 $^{+1.5}_{-0}$	95 $^{+10}_{-0}$	95 $^{+10}_{-0}$	M16 (30)	M16 (35)
75	90.0 $^{+1.5}_{-0}$	105 $^{+10}_{-0}$	105 $^{+25}_{-0}$	M16 (35)	M16 (35)

低温時は締付トルクが高くなります。

②パイプ挿入

分解せずに継手を**標線**まで入れ、仮止めスペーサと開放ナット(緑色)を取り外します。

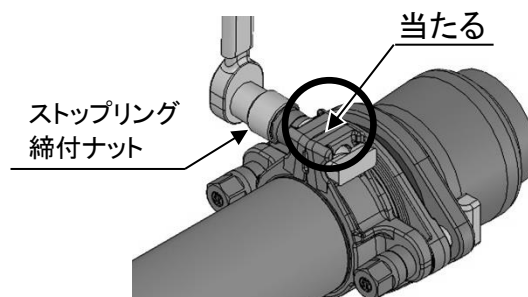
- ・ 仮止めスペーサが外れにくい場合は押リング締付ナットを少し緩めて下さい。
- ・ 開放ナットの外し方は、開放ナットを「S」の方向(左回り)に回して取り外して下さい。



④ストップリング本締

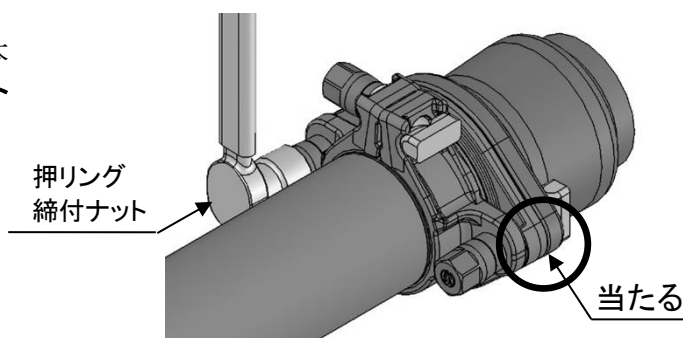
ストップリング先端が当たるまでストップリング締付ナットを**本締め**して下さい。

「K 寸とボルトサイズ表」参照



⑤押リング本締め

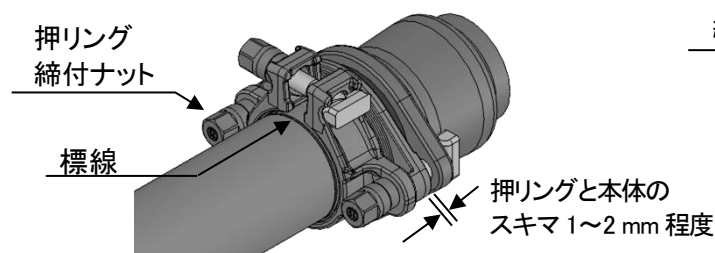
押リング締付ナットを押リングが本体に**当たる**まで数回にわたり**均等**に本締めして下さい。



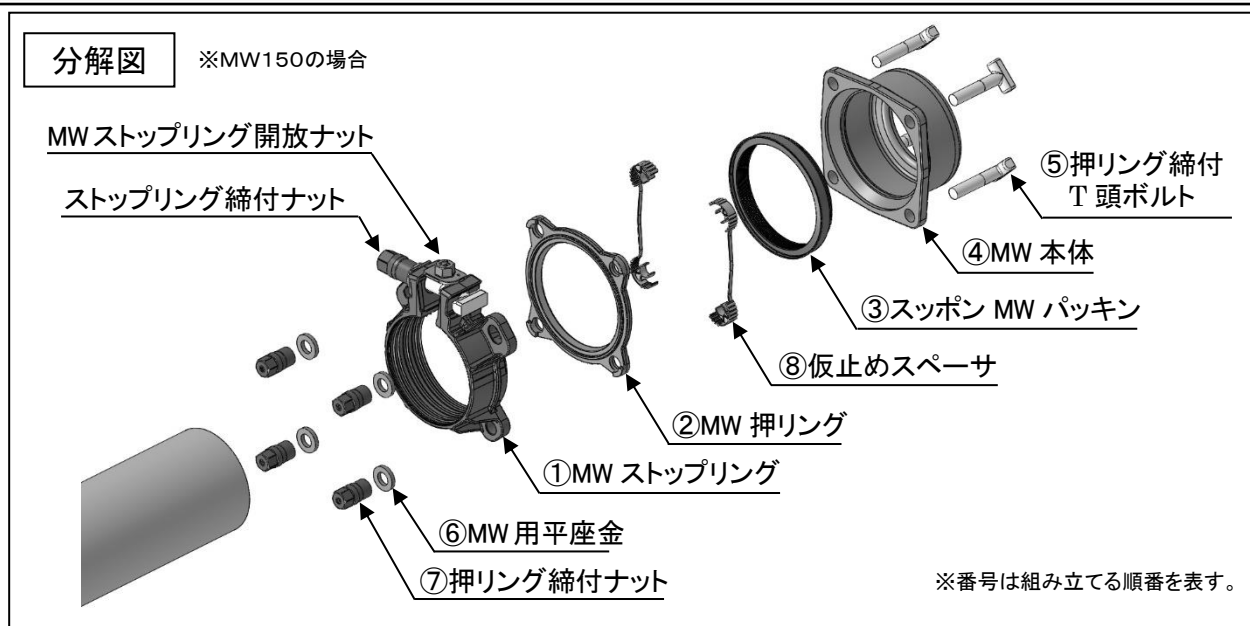
③押リング仮締め

ストップリングを**標線**と合わせた状態で、押リングと本体のスキマが 1~2mm になるまで、**押リング締付ナット**を**均等**に締め付けて下さい。

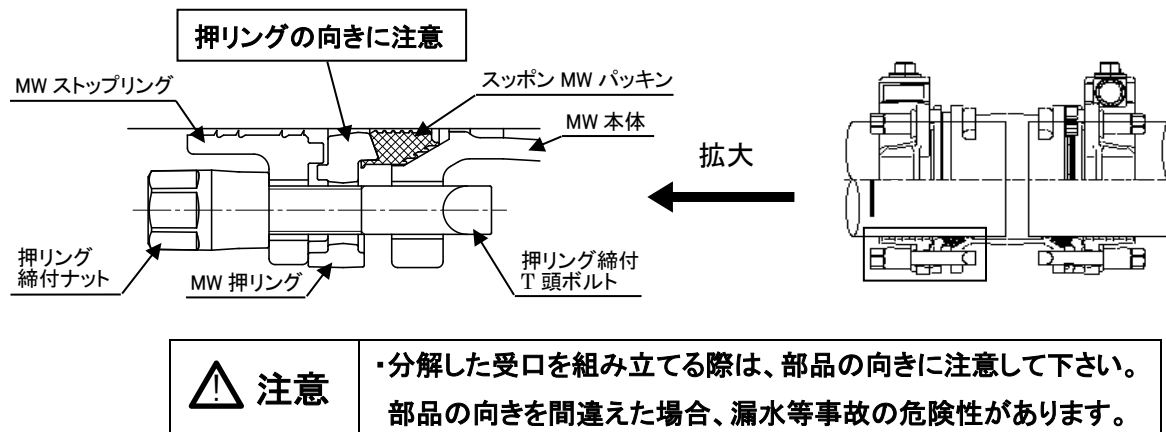
(締め過ぎてスキマが 0mm になった場合はゆるめて下さい。)



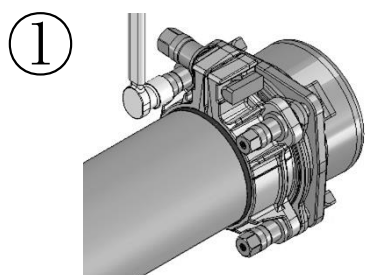
1. 分解した時の施工手順



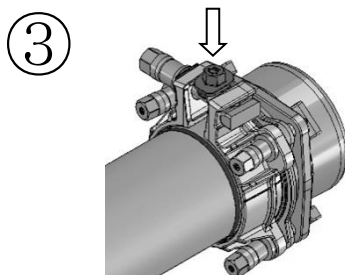
2. 分解施工時の注意事項



3. 取り外し手順



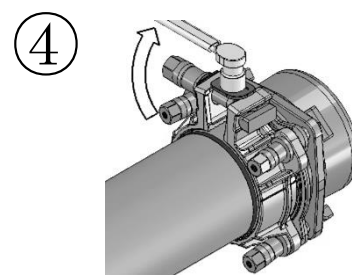
押リングを緩めて下さい。



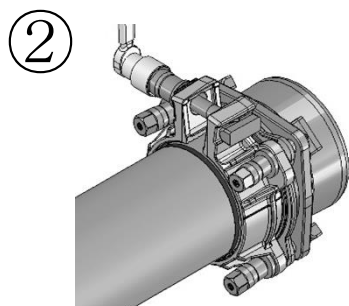
ストップリング先端のスキマに
開放ナットを挿入して下さい。

開放ナットサイズ

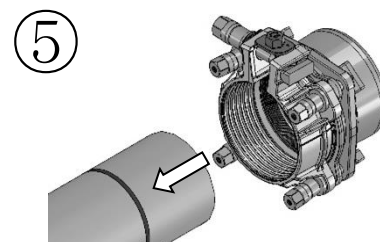
呼び径	ナットサイズ	対辺
40	M16	24
50	M16	24
75	M16	24
100	M16	24
150	M20	30
200	M24	36



開放ナットを「O」の方向（右回り）
に 90° 回す。



ストップリングを分解しない程度
まで緩めて下さい。



ストップリングが開放されますので
パイプを外して下さい。
（開放ナットが外れることがあるの
で注意して下さい。）